

ほっかいどうの社会保障

2011年1月18日

北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

「STOP!医療・介護・保育・障害者福祉の改悪! 1.15集会」 「共同の運動とたたかいをすすめよう!」と 四分野を中心に127名が参加して開催

久しぶりに晴天となった1月15日(土)、札幌市内で「STOP!医療・介護・保育・障害者福祉の改悪! 1.15集会」を開催しました。

この集会は、通常国会に医療・介護・保育の改悪法案が出されようとしており、先の臨時国会では障害者自立支援改正法(延命法案)が可決されていることから、医療・介護・保育・障害者の各分野の改悪の内容や運動について学び、交流し、共同の運動をすすめようと開催されました。

集会には、大雪で道路事情の悪い中、各分野、団体から127名が参加しました。

基調報告で、「改悪法案の国会上程を許さない運動」を呼びかける

細川久美子道生連副会長が開会の挨拶をした後、吉岡恒雄道社保協事務局長が「集会の基調報告」を行いました。

国の進めようとしている制度「改定」・施策のスケジュールを示し、通常国会が「社会保障国会」になると指摘。民主党政権の社会保障政策が前政権の延長線上にあるだけでなく、さらに踏み込んで改悪を進めようとしていると強調し、あわせて地域主権改革、TPP参加問題、消費税増税路線への運動の重要性を述べました。

一方で、民主党政権の矛盾の拡大、政局運営の混迷から法案の行方が流動的になっているとして、改悪法案の国会上程を許さないために、「知る、知らせる」運動と国会に「声を届ける」運動を提起しました。



4分野から、それぞれの改悪の内容と運動について報告

沢野天さん(道民医連社保・広報部)は、医療をめぐる切実な要求や実態、後期高齢者医療制度の問題点にふれ、新たな高齢者医療制度の危険な内容と運動の方向について報告しました。

木幡秀男さん(勤医協在宅、東在宅総合センター)は、介護保険制度の10年を振り返り、国のすすめる介護保険制度「改正」案や地域ケアシステムの問題点を指摘し、「介護の市場化」ではなく、真の「介護の社会化」が必要と述べました。

保育分野は、劇団新システムズが、保育制度(子ども・子育て新システム)の改悪でどうなるのか、寸劇風に判りやすく演じました。

榛葉章さん(障道協)は、障害者自立支援法の問題点とこの間の障害者当事者による自立支援法反対・廃止の取り組みについて述べ、先の国会で可決された自立支援「改正」法の問題点や障害者基本法改正の動きについて報告しました。



沢野 天氏



木幡秀男氏



劇団新システムズ



榛葉 章氏

報告の後、フロアから保育、障害者、医療に関連して6名が発言し、最後に、渡部務年金者組合道本委員長が、共同の運動を呼びかけて閉会しました。



集会で集まった要請FAX・ハガキを送りました

集会参加者に、国に対する要請FAX・ハガキの記入をお願いしましたが、後期医療FAX~34名分、介護ハガキ~49名分、保育ハガキ~50人分が集まりました。早速、事務局で関係省庁に送付しました。

また、6種類の署名に、合計で643筆の協力がありました。ありがとうございます。